

スライドカンファレンス

<症例 1 >

症 例：68歳，男性。

既往歴：特筆すべきことなし。

現病歴：原因不明左胸水にて来院。特記すべき曝露歴はない。

検 体：左胸水。

性 状：黄色透明，漿液性。

回答者診断：悪性中皮腫。

出題者解答：悪性中皮腫。

解 説：患者は，大量胸水によって紹介来院となり，精査目的に胸水が提出された。アスベスト曝露などの特記すべき職業歴はない。

胸水プレパラート中には，細胞の多い部分のみられるものの，全体としてはやや少なく感じられた。背景にリンパ球が多く好中球はわずかで，中皮細胞が散在し，一部で小型から中型のクラスターを形成していた（写真1）。核は中心性で，クロマチンは細～粗顆粒状，核小体は円形で目立ち1，2個の細胞が多くみられ，核分裂像も散見された。細胞質は比較的厚く一部泡沫状や重厚感がみられ，辺縁の不明瞭感はあまり強くない。また悪性中皮腫の特徴であるオレンジG（OG）好性細胞，Hump様細胞質突起を認めた（写真2，3）。

細胞集塊は平面的であり，II型 collagenous stromaも認めないため，反応性中皮細胞の可能性も考慮したが，2核（軸対称性2核細胞），3核等の多核細胞が多

く（写真4），OG好性細胞，Hump様細胞質突起を多く認めたため，細胞数がやや少ないものの，悪性中皮腫を第一選択と考え，胸水ヒアルロン酸測定や胸膜生検の精査を臨床医に依頼した。その後，ヒアルロン酸値は，129,000ng/mlと高値であることが判明した（カットオフ値は，10万ng/ml）¹⁾。

胸膜生検の組織所見は，HE染色で，部分的に核小体および細胞異型が目立ち，免疫染色では，calretinin（+），D2-40（+），EMA（+），CEA（-）を示した（写真5）。腫瘍細胞の結合組織層や脂肪組

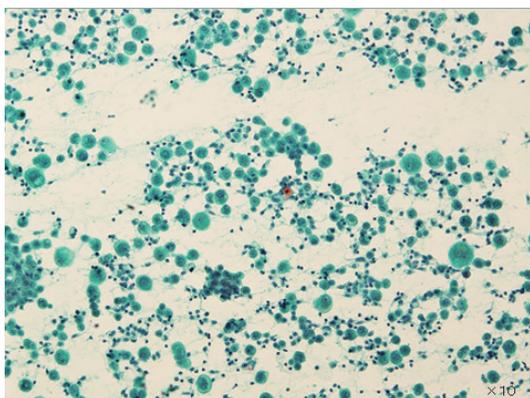


写真1 弱拡大では，背景に多くのリンパ球がみられる（Pap.染色，対物10倍）。

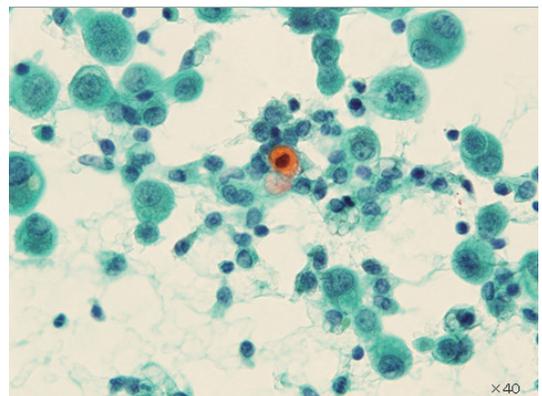


写真2 写真の中心にOG好性細胞，周囲に細胞接合像，2核細胞，核分裂像がみられる（Pap.染色，対物40倍）。

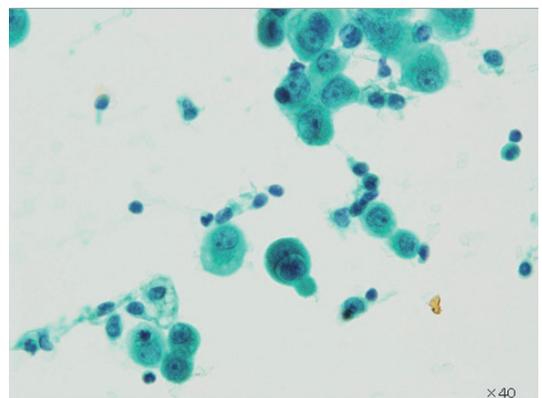


写真3 中央にhump様細胞質突起がみられる（Pap.染色，対物40倍）。

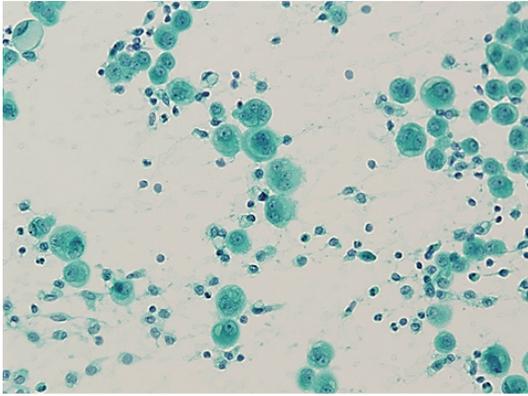


写真4 軸対称性2核細胞や3核細胞がみられる (Pap. 染色, 対物20倍).

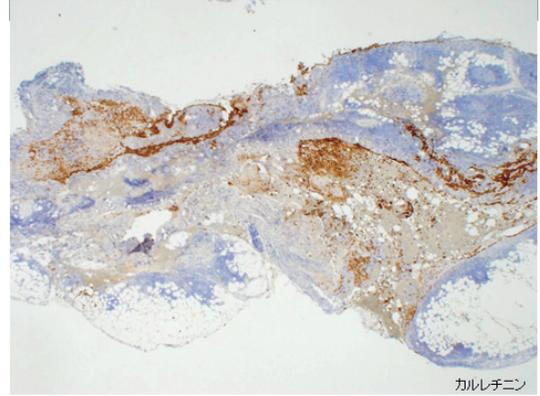


写真5 Calretinin 陽性細胞が脂肪織浸潤を呈している (生検の calretinin 免疫染色, 対物4倍).

表1 悪性中皮腫の細胞形態の特徴³⁾

	悪性中皮腫	反応性中皮	腺癌
出現様式	細胞多数 (集塊状, 孤在性)	細胞少数	症例により様々
細胞集塊	球状, 乳頭状 孤在細胞との移行像	平面的	乳頭状細胞と孤在細胞の混在
細胞質	辺縁不明瞭 重厚感 (特に孤在細胞)	辺縁やや不明瞭 やや重厚感	辺縁明瞭 空胞状や淡明 一部重厚感
結合性	細胞接合像あり hump 様細胞突起多い	細胞接合像あり 細胞相互封入像は少数	細胞相互封入像あり hump 様細胞突起少ない
核	中心性 類円形で均一 多核細胞 (均一感)	中心性 軽度大小不同性 多核細胞	偏在性 核型不整, 大小不同性 多核細胞 (均一感なし)
その他	オレンジG 好性細胞 II型 collagenous stroma	両者めだたず	卵巣明細胞癌でII型 collagenous stroma

織内への浸潤を認め, 悪性中皮腫 (上皮型) と診断された。

本症例における胸水は肉眼的に漿液性であり, 細胞所見も, 全体に核異型が弱く反応性中皮細胞との鑑別に苦慮する症例であった。また, CT 画像においても, 胸膜肥厚は認めなかった。

悪性中皮腫では, 約80%で胸水貯留が認められ, 初期病変から胸水に中皮細胞が出現することが多い²⁾。このことを考慮し, 多核細胞や細胞接合像, Hump 様細胞質突起を見逃さずに鏡検し, 所見が典型的でないと思われた場合には, 臨床医との意思疎通を密に取り, 胸水ヒアルロン酸測定や胸腔鏡下胸膜生検を実施してもらうことが, 早期診断のために重要であると考ええる。

最後に, 胸水細胞診では悪性中皮腫と反応性中皮細胞の鑑別のほかに, 腺癌との鑑別を要することのほう

が多いので, 「悪性中皮腫の細胞形態の特徴」を文献より引用し, 表1に示した³⁾。

筆者は, 本論文において開示すべき利益相反状態はありません。

文 献

- 1) 井内康輝. 中皮腫の病理. 青笹克之, 松原 修, 編. 癌診療指針のための病理診断プラクティス. 東京: 中山書店; 2011. 238-246.
- 2) 辻村 亨, 鳥井郁子, 佐藤鮎子. 中皮腫の初期病変. 青笹克之, 松原 修, 編. 癌診療指針のための病理診断プラクティス. 東京: 中山書店; 2011. 247-258.
- 3) 亀井敏昭. 中皮腫診断における体腔液細胞診の評価と今後の課題～中皮腫細胞診評価WG活動報告を中心に～. 独立行政法人環境再生保全機構. 第6回中皮腫細胞診実習研修会ハンドアウト. 2014. 23-43.